

KEK 史料室の現況報告

関本 美知子 (KEK 史料室)

KEK 資料室の現況報告をさせていただきます。

KEK にて現在、高岩室長の後任として史料室室長を併任というかたちで務めさせていただいております関本と申します。

KEK 史料室の発足について

1971 年、高エネルギー物理学研究所として発足以来、日本における素粒子物理学の中心地として 12GeV 陽子シンクロトロン (PS)、放射光実験施設 (PF)、TRISTAN そして KEKB 加速器を建設し、それらの施設において数多くの実験を推進しながらその貴重なデータを蓄積してきました。

更に、高エネルギー物理学研究所、東京大学原子核研究所および東京大学理学部付属中間子科学研究センターが 1997 年に統合されて発足した現在の高エネルギー加速器研究機構には、素粒子・原子核・物性物理・生命科学および宇宙科学の膨大かつ貴重な資料が一堂に集められることになりました。

この統合により、素粒子だけではなく、原子核、また、放射光実験施設をはじめとする物性物理・生命科学などからの膨大かつ重要な史料が一同に集められるようになりました。

そして KEK 史料室は 2001 年頃からこのような状況を察知し、菅原元機構長の委嘱を受けて準備を始め、2004 年 4 月に正式組織として発足いたしました。

KEK 史料室の人員体制

現在、担当理事に下村理先生、事務職員として住谷陽一さん、中村優子さんの 2 名、研究支援推進員として高橋嘉右先生、三浦靖子先生、研究協力員として元室長である高岩義信先生、伊藤憲二先生、それに KEK の菊谷英司先生、室長、以上がメンバーとなって運営をしております。

第 I 部 本研究課題の成果報告

しかし、素粒子・原子核をはじめとした膨大な資料をかかえる史料室として、現状かつ将来的にマンパワープロブレム [manpower problem] がとても大きい問題であると感じられます。たとえば核融合研と比較すると、正規の職員でない研究者も含め、共同研究としての体制が非常に弱いということが一番の問題点であると認識しております。

KEK 史料室 関連委員会等について

そういう色々な状況をふまえた上で、ようやく昨年(2007)の4月、史料委員会 [KEK Archives Committee] が主幹会議にて承認されました。この委員会は年2回(9月、3月)のペースで委員会の開催を予定しております。また委員会メンバーは、担当理事、史料室長、総務課長、建築課長、その他機構長が必要と認める機構内及び機構外の者(複数)で構成されております。現在のメンバーについては下記の表をご参照ください：

機構内：	下村 理 (委員長)	物質構造科学研究所長	
	関本 美知子 (史料室室長)	素粒子原子核研究所助教	
	岩越 俊治	管理局総務部総務課長	
	高野 潔	管理局施設部施設課長	
	池田 進	物質構造科学研究所副所長	
	松下 正	物質構造科学研究所教授	
	菊谷 英司	評価・調査室准教授	
	高橋 嘉右	高エネルギー物理学研究所名誉教授	
	木原 元央	高エネルギー加速器研究機構名誉教授	
	機構外：	安藤 正人	国文学研究史料館教授
		西山 伸	京都大学大学文書館准教授
		平田 光司	総合研究大学院大学教授
松岡 啓介		核融合研究所教授	
高岩 義信		筑波技術大学教授	
	中村 健蔵	東京大学教授	

現在の史料委員には KEK およびそれに関連した研究者だけでなく、たとえば京都大学大学文書館・西山伸先生や国文学研究資料館・安藤正人先生などアーキビストの方々にも参加していただいております。

第1回史料委員会は2007年10月18日に開催されました。次回、第2回史料委員会は2008年2月29日開催が予定されております。現在委員会にて協議している主な課題としては、

- 史料室規約、史料室利用規則等の整備
- 一般への公開に際しての個人情報の扱い

第4章 KEK 史料室の現況報告（関本）

- 史料の収集・保管と廃棄の基準
- 実験装置等（特に大型装置）の扱い

などがあげられます。

その他の史料室関連委員会としては、国際・社会連携部3室懇談会を担当理事が主宰、昨年より機構長懇談会を機構長が主宰。この2つの懇談会が1ヶ月ごとに交互に開催されています。この会では各室における詳細な問題等を挙げて検討しており、非常に有効に機能していると思われます。

次年度には共同研究としての史料作業部会（KEK Archives Working Group）の発足を予定しております。史料委員会発足により発足以来17回開催されていた作業部会の役割は終わったので、新しく共同研究者を中心とした実際の作業を進めるグループを作っていくこと、そして各WGによる研究課題で作業する（例：泡箱実験、測定器、加速器等）ことを目的に、実践的かつ活動可能なOB研究者等によるメンバーによりどういうかたちで開催していくか、現在考えているところです。

現在の活動状況

現在の活動状況としては、総研大のプロジェクトを中心に以下の8項目を実施しております：

- 資料収集
- 会議記録・写真等のデジタル化
- オーラルヒストリー
- EAD化のための作業
- 史料公開のための準備
- KEK一般公開、企画展示
- 共同研究
- 史料保管庫の整備

次にこれらについて簡単に報告させていただきます。

- 資料収集とデジタル化の現況

資料収集の現況としては、

- 元所長・機構長からの資料：西川哲治、菅原寛孝
- 12 GeV PS（2003年終了）、TRISTAN（1996年終了）関連の資料

第 I 部 本研究課題の成果報告

- KEK-PDG 書類 (小柳義夫氏寄贈)
- 東京大学原子核研究所 (INS) 及びブースター中間子実験施設関連の資料 (1997 年、KEK と INS が連合して現在の高エネルギー加速器研究機構となった)
- 山口、北垣、中井各名誉教授等からの寄贈
- 加速器関係の資料

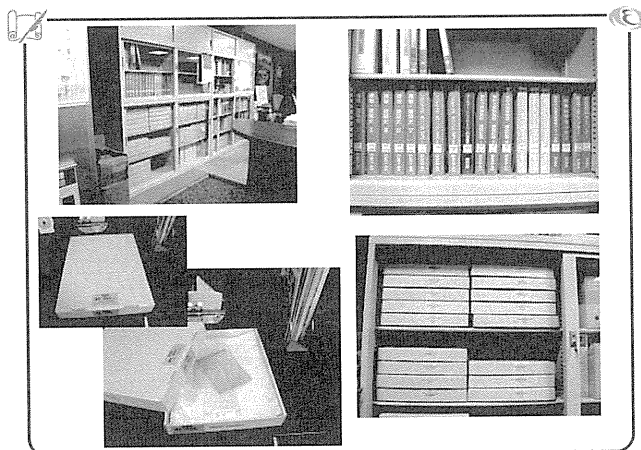
等の史料が集められております。主幹会議等、機会がある毎に呼びかけており、少しずつ成果ができてきているのですが、今後、増える資料のための保管スペースの確保が問題になりつつあります。

デジタル化されている資料は、高橋先生の精力的な作業により、かなり整理されてきております。既にデジタル化が終了した資料として、

- KEK 建設の記録写真
- 放射光実験施設 (PF) とブースター中間子実験施設の運営協議会議事録

の 2 点があげられます。

下の写真は、KEK 資料室を撮ったものです：



2008.2.8

大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ2007

9

各写真関係の資料は左下の写真にあるように、個々の袋に入れて保管しております。これこれの写真が欲しい、というような要望に即座に対応できるような保管体制ができつつあります。現在は検索機能を準備中です。

● KEK 史料室におけるオーラルヒストリー（インタビュー）

- * JSPS・NSF の二国間交流事業の一環として、
 - ・ Dec. 2004 ～ Apr. 2005 山口嘉夫（Tokyo）
 - ・ Mar. 2005 南部陽一郎（Chicago Univ.）→ 小冊子として発行済み
 - ・ Mar. 2006 尾崎敏（BNL）→ 現在外注したテープ起こし原稿の精査中（by 三浦）

のインタビューがこれまで実施されました。今後は

- ・ Feb. 2008 Donald Glaser, G. Goldhaber, Herb Steiner et al.（LBL）を予定（by 関本、菊谷）
- ・ 2008 その他、山内泰二（Chicago Univ.）et al. を予定（by 高橋、菊谷、高岩等）

のインタビューを予定しております。

- * 総研大プロジェクトにおける共同研究としては、

- ・ May 2006 小林
- ・ May ～ July 2006 戸塚洋二（Nagareyama and others）

の2名にご協力いただきました。詳細につきましては、私が室長として着任する前のことですので恐縮ですが、現状はわかりかねますが、これらも出来るだけ早急に文書化して、必要に応じて活用できるように整えていかなければと考えております。

上の2つのオーラルヒストリープロジェクト課題以外に、史料室として企画しているものとして、「日本における加速器の歴史」というテーマがあります。その企画では、

- 2007 平尾泰男
- 2008 竹腰秀邦、井上信、上坪宏道、三宅弘三、北垣敏男、各氏 et al.

のインタビューを実施・予定しております。まずは企画関係の資料を集め、こちらでわからないこと不明瞭なことなどを教えていただきながら補っていく、というかたちでインタビューへとすすめる計画です。

第I部 本研究課題の成果報告

● KEK 史料室における EAD（電子化記述）化のための作業状況

史料の公開にむけて、総合研究大学院大学を中心とした「収蔵アーカイブズ検索手段 EAD/XML 化プロジェクト」に参加して大学共同利用機関の間での史料情報共有化データベースの準備を進めています。これをふまえた KEK 史料室における EAD(電子化記述)化のための作業状況としては、実際のものをみていただくのが一番であると考えます。主な特徴として、

- (1) 閲覧検索のための史料のデータベースは現在2つのサーバ (kekarch-dss.kek.jp、kekarch-fps.kek.jp) 上に存在しているということ、
- (2) 上の2つサーバにおけるそれぞれの機能 (富士ゼロックス社の文書共有化ソフトウェア DocuShare を用いた DB と FileMaker Pro を用いた DB) を保持しつつ、EAD 検索手段の機能も持たせたサーバを考慮中 (by 高岩) であること、
- (3) まずは KEK 史料室内におけるデータベースを構築し、それを標準化「電子化記述」(EAD) に準拠した XML ファイルに出力することを目標としている、

という3点があげられます。所蔵資料コレクションの概要としては、次の表をご参照ください：

所蔵資料コレクションの概要 copyright © 2007 KEK Archives (last modified) 10 May, 2007		
標題 KUNKYO 運営協議委員会議事録 ソース 庶務課	整理中 運営協議委員会、 庶務課	
内容 高エネルギー物理学研究所(～1997年3月)の「運営協議員(の)会(議)」の議事要録と補助資料。 説明 行政文書として取り扱う。庶務課で原本を保存・管理。史料室で、プライバシーをおかすおそれのある個人情報を含む部分を除いてデジタル化、CD-ROM で保管。		
標題 KHYOGI 評議員会議事録 ソース 庶務課	整理中 評議員会、庶務課	
内容 高エネルギー物理学研究所の評議員会の議事要録と補助資料。 説明 行政文書の扱い。庶務課で原本を保存・管理。史料室で、プライバシーをおかすおそれのある個人情報を含む部分を除いてデジタル化、CD-ROM で保管。		
標題 KMONTH 高エネルギー研月報 ソース 庶務課	調査中	
内容 高エネルギー物理学研究所(～1997年3月)の月報。 説明 庶務課の保存庫に残余の月報を保管。ただし研究所の最後の時期(機構になる前)のものが無い。製本された完本は図書室で蔵書として管理。すでに製本されたものには欠号があったが、庶務課の保管場所にあったもので補うことができる。史料室で上記、庶務課の保管場所から一部ずつ抜き取って保管(がって欠本あり)。計算科学センターの榎原さんから最後のこの分を拝借。		

2008.2.8

大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ2007

12

コレクション・リスト形式が前室長・高岩先生により作成されていました。

第 4 章 KEK 史料室の現況報告 (関本)

コレクション リスト形式(例)

区分	資料群識別コード	資料群記号	資料群機関	索引事項	主題	要約	出所・作成	伝来	資料管理履歴	履歴	組織歴	受入情報	現行数
101-1-1	101-1-1-0001	101-1-1-0001	101-1-1-0001										1000
	101-1-1-0002	101-1-1-0002	101-1-1-0002										1000
	101-1-1-0003	101-1-1-0003	101-1-1-0003										1000
101-2-1	101-2-1-0001	101-2-1-0001	101-2-1-0001										1000
	101-2-1-0002	101-2-1-0002	101-2-1-0002										1000
	101-2-1-0003	101-2-1-0003	101-2-1-0003										1000

項目としては左より、資料群識別コード、資料群記号、資料群機関、索引事項・主題、要約、出所・作成、伝来・資料管理履歴、履歴・組織歴、受入情報の9つがあります。そして、さらに以下のように詳細にデータ化されています：

コレクションの例

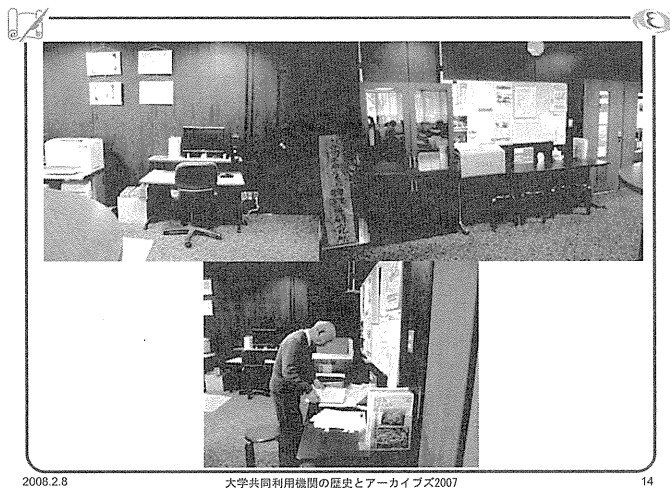
区分	資料群識別コード	資料群記号	資料群機関	索引事項	主題	要約	出所・作成	伝来	資料管理履歴	履歴	組織歴	受入情報	現行数
101-1-1	101-1-1-0001	101-1-1-0001	101-1-1-0001										1000
	101-1-1-0002	101-1-1-0002	101-1-1-0002										1000
	101-1-1-0003	101-1-1-0003	101-1-1-0003										1000

第I部 本研究課題の成果報告

引越時箱リストは、昨年夏の保管庫の引越しの際、旧保管庫に保管されていた箱および史料室内に保管されていた箱全てにともかく番号をつけ、その内容をエクセルファイルの形式でリスト化したものです。その箱リストを高岩先生によってファイルメーカーに変換され、現在は箱の中に保管されている資料の情報をひとつひとつファイルメーカーで入力している段階にあります。

● 史料公開のための準備

史料室としては公開にあたり、(1) 閲覧、複写、貸出し等のための規則等（作成について史料委員会にて協議中）、(2) 閲覧・検索用PCおよび閲覧場所（確保済み）、(3) ホームページの改装（必要な情報を調査しつつ仮HPを作成中）、の3点が主な課題となりました。まず、研究本館1階にある史料室の閲覧スペースを写真でご紹介いたします。



左上の写真は、検索のためのコンピュータとプリンター、右上は史料室内にあります閲覧コーナーです。下の写真は、閲覧コーナーにおいて北垣先生から送付していただいた資料を高橋先生が確認されていらっしゃるところです。このように、室内ではそれぞれの作業ができるようになっています。次にホームページに関してですが、しばらくの間（2005年より）更新されていなかったため、更新を兼ねて改装することを計画しております。もう少し情報がそろった上でデザインを外注などしてより整えたホームページにしていきたいと考えています。

- KEK 史料室における展示

史料室における展示については色々ありますが、特に企画展示というものを中心として活動していきたいと考えています。企画展示というのは、自ら企画をたて、それを中心に史料を整理する、という活動です。できれば、企画展示毎になんらかの形でまとめたものを残していけたらと考えています。KEK の一般公開及び企画展示としては以下の代表的企画があります。2006 年には“Tomonaga and National University Corporation Laboratory（朝永振一郎博士と共同利用研究所）”と題した企画展示を、総研大の伊藤先生にもご参加していただいた上で行いました。この企画ではパンフレットが作成され配布されました。昨年は、“The history of Accelerator Developments in Japan I（日本における加速器の歴史 I - 1955 頃まで）”という題目で、東大・原子核研究所設立あたりまでの時期における日本での加速器開発を中心に展示しました。今年は原子核研究設立以後、どこまですすむか未定ではありますが、“The history of Accelerator Developments in Japan II（日本における加速器の歴史 II - 1955～）”という題で史料を整理して、秋の一般公開に展示したいと思っています。

- KEK 史料室における共同研究

JSPS（Japan Society for the Promotion of Science（日本学術振興会））二国間交流事業として、UCLA（S. Traweek）と KEK（M. Yoshioka）の間に共同研究の場を設けることができました。この共同研究としては今年度、2つの事業があります。

第一は、これは伊藤先生のお話しにありましたが、2007 年 8 月 20 日～24 日の 5 日間、総研大と KEK で二国間交流事業（NSF Core to Core Project）の一環として、UCLA-KEK-SOKENDAI Symposium を開催いたしました。参加者は総勢 35 名、大変有意義な会議であったと思います。

第二は、2007 年 10 月 28 日～11 月 5 日に米国・カリフォルニア州にて以下を訪問し、それぞれでアーカイブズに関する議論や見学を行ってきました。

Oakland Scientific Facility : OAC (Robin Chandler, et al.),

LBLN : Archives and Records Office (John Stoner, et al.),

SLAC : Archives and History Office (Jean Marie Deken et al.),

UCLA : 図書館員およびアーキビストとの会議、JST のアメリカでの活動報告、オーラルヒストリーに関する議論、UCLA 図書館にある保管庫の見学

この時に見学した、LBLN における仮保管棚の様子、それから SLAC における仮保管庫の様子がそれぞれ次の写真に取められています。

第I部 本研究課題の成果報告



全面的チェーンは中心の柱に引っ掛けてあり、ここをはずすだけで保管箱の出し入れが簡単になる。

受入れた資料は、パレット上に積み上げられている。ここで資料ごとの箱体の薄さフォワードを生成。整理されて仮保管箱へ移され、更に最終的に別の場所にある保管庫へ移される。保管箱は、固い合わせがあった時点でできるが、固い合わせがなく直接送ってくる場合は、箱の大きさ及び状態によってそのままか、移し変えて保管する。

LBNLにおける仮保管棚の様子

2008.2.8 大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ2007 19



SLACにおける仮保管庫の様子

移動保管庫を使っていて、この他に保管庫が用意されている。

別室で受入れた資料は、reboxingされ、整理分別されてこの仮保管庫へ移動。

2008.2.8 大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ2007 20

また、KEK 史料室の企画「日本における加速器の歴史」に関連して、村山 斉氏（東京大学数物連携宇宙研究機構長、LBNL Professor）の紹介により、2008年2月25日～26日に Donald Glaser, Gerson Goldhaber, Herb Steiner 各教授らと会い、戦前及び戦後のバークレイにおけるサイクロトロン開発に関しての

第4章 KEK 史料室の現況報告 (関本)

インタビューを行う予定です。

KEK 史料室におけるもう一つの大きな共同研究としては、総研大・葉山高等研究センタープロジェクト「人間と科学」(代表:平田光司)(SOKENDAI Hayama Center for Advanced Studies Project 'Science and Humanity')があります。KEK 史料室は、大学共同利用研の歴史(核融合研、etc.)、資料情報の共有化(アーカイブズ、国文研、核融合研)、映像アーカイブズの記録(民族学博物館)という課題に参加し、それぞれ精力的な研究がすすめられています。

● KEK 史料室における保管庫

KEK 史料室における保管庫についてですが、日光実験棟地下2階にて現在保管している資料(箱数)は351箱、書架の中でバラになっているものもあります。地下ということで、紫外線対策が不要であるという利点があります。この、日光実験棟というところは加速器管轄の建物で「放射線監視区域」であるために一般区域として指定されておらず、その上保管庫を常時管理している者がいないため、当面の間、原則として一般閲覧者の入室は許可されません。ただし、先ほど見ていただいたとおり、研究棟1階のほうに閲覧スペースができていますので、閲覧希望のある資料およびの借出し希望の多い写真等は研究棟の方で準備がされており、見ていただけるようになっております。

KEK 史料室における資料の受入れの基準については、現在 KEK 史料委員会において協議中です。



第 I 部 本研究課題の成果報告

上の写真は現在の KEK 保管庫の様子です。箱のほかに、書架にばらで整理されている資料もあります。左下の写真は箱ごとに持ち出して作業をしている様子です。右下のように書架にバラで保管されている資料はノートパソコンを使用して現場で整理したりすることも可能となっています。

以上、KEK 史料室の現況報告についての発表を終わります。